

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

農業高校としての機能を最大限に活かし、社会や産業の発展、SDGs 達成に貢献できる人材を育成することにより、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着と、これらを活用して主体的に課題を解決するための思考力、判断力、表現力、創造力などを身に付けさせる。
- 2 SDGs の理解、生命と人権、自然と環境を大切にすることを育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
- 3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力やチャレンジ精神を育む。
- 4 地域や産業界等との連携を密にし、様々な社会資源を活用した教育活動を展開し、府立高校あるいは農業高校としてのニーズと期待に応える。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 社会に開かれた教育課程の実現

ア 農業高校としての強みを活かし、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるための資質・能力を育むための教育課程を実施する。

*新たな教育課程に基づく教科活動等について、形成的評価を通じ検証し常に魅力あるものへと高めていく。

イ 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力を着実に育成する。

*各教科における育成したい資質・能力を明確化し、「観点別学習状況の評価」方法を確立する。

ウ SDGs の達成を視点として教育活動をとらえ行動することにより、達成に向けて自らが貢献できる素養をはぐくむ。

*各学科や教科、特別活動などの教育活動を SDGs のターゲット達成に照らし合わせ、それらをマトリクス化・体系化させる。

(2) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。

ア 1年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入し、個々の生徒に応じた、きめ細かな指導により基礎学力を向上させる。

*授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」(R1 3.18 R2 3.24 R3 3.29)を令和6年度には3.40にする。

イ アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させ、生徒が主体的に学習に取り組むための環境づくりを進める。

*授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができていく」(R1 3.30 R2 3.37 R3 3.39)を令和6年度には3.50にする。

ウ 学力委員会を設置し、「高校生のための学びの基礎診断」の導入と効果的な活用等について研究する。

*教育産業の基礎学力調査を活用するなど、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルを構築する。

エ 1人1台端末を利用し、より効率的で魅力ある授業作りについて研究する。

*学習支援クラウドサービスの活用により、本校ならではのオンライン授業システムを構築する。

(3) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。

ア 各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科との連携方法について研究する。

*授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」(R1 3.18 R2 3.27 R3 3.32)を令和6年度には3.40にする。

イ 課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。

*農業クラブ大阪府研究発表会に向けた発表本数を増加させる。

ウ 「知財力開発校支援事業」の研究指定を生徒の知的財産への理解向上、創造性、主体性、自主性の醸成につなげていく。

*知的財産教育を教育活動に定着させる。「園芸高校ブランド」を形成する。

2 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。

ア 教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナー、清掃活動、美化などに対する指導を徹底する。

*遅刻による早朝指導対象生徒数(R1 86名 R2 119名 R3 70名)を毎年1割以上減らし、令和6年度には50名にする。

イ 災害時の生徒の安全確認を迅速に行うとともに、帰宅困難となり一定期間待機せざるを得ない生徒の安全を確保する。

*学校ウェブページに開設した緊急連絡フォームと学習支援クラウドサービスを活用し、安全確認を行う。

(2) 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を確立する。

ア 職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制をさらに充実する。

*生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」(肯定率 R1 73% R2 70% R3 83%)を令和6年度には86%にする。

イ 中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた指導を推進する。

*年度末の進級率・卒業率(R1 95% R2 96% R3 97%)を令和6年度に99%とし、それを維持する。

(3) 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立

ア 生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。

*ともに学びともに育つという理念にもとづき、自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制を完成させる。

(4) 生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成と学校の魅力の発信

ア 教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、校務についての組織的、効果的、効率的な遂行を図る。

*教職員の問題事象をなくすとともに、働き方改革による長時間勤務の是正を進める。

イ 府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。

*学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成、学校ウェブページ更新、報道提供を推進する。

3 夢と志を持つ生徒の育成

(1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。

ア 就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。

*学校紹介による就職率100%を維持する。農業関連分野への就職を促す。海外での研修を実施し、異文化交流等の体験により国際的な視野を育む。

イ 進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進路指導体制を確立する。

*大学進学に対応した教育課程を編成する。国公立大学や難関私立大学への進学者15名以上を目標とする。

ウ 各学科の学習内容を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。

*導入したキャリア・パスポートについてキャリア形成に向けての有効な活用を図る。

アグリマイスター顕彰制度認定者(R1 5名 R2 2名 R3 7名)を令和6年度には15名にする。

(2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

*生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(肯定率 R1 70% R2 72% R3 72%)を令和6年度には78%にする。

イ 農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。

*農業クラブ加入率(R1 53% R2 46% R3 40%)を令和6年度に60%とし、それを維持する。生徒、保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定率は1年生79%、2年生75%、3年生80%となり、昨年度とほぼ同じであったが、3年生の肯定率が前年度より6%増加した。 <p>○肯定率の高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育に特色があること(98%) ・実験実習の施設設備が整っている(91%) ・先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる(90%) ・先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている(92%) ・将来の進路や生き方について考える機会がある(90%) ・この学校は他の学校に比べ就職に有利だ(94%) ・この学科に入学してよかった(90%) <p>*前年度とほぼ同じ結果であったが、進路について考える機会については、4%増加しているのは、3年生での満足度が高かったためである。</p> <p>○肯定率の低いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや地域活動への参加の機会がある(44%) ・生徒会活動に関心が高い(39%) <p>*生徒会クラブへの入部率の低さなど、授業以外での活動が不活発であることが、これらの肯定率の低さにつながっている。肯定率は全体として低い。前年度から4%肯定率が上昇し、徐々に改善してきている。</p> <p>2 保護者</p> <p>○肯定率の高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校が独自の教育活動を行っている(99%) ・地域連携を積極的に行っている(95%) ・学校の雰囲気がよく生徒が生き生きとしている(90%) ・子供は、学校行事に積極的に参加している(93%) ・プライバシーが守られている(91%) ・将来の進路や職業などについて適切な指導をしている(90%) <p>*前年度とほぼ同じ結果である。</p> <p>○肯定率の低いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動は、活発である(75%) ・部活動は、活発である(76%) ・学校の施設・設備は、学習面でほぼ満足できる(73%) <p>*前年度と同様の結果であった。施設の老朽化については、学校に来る機会が増え、老朽化のめだつ様子が原因。早期の改善を求めたい。</p> <p>3 教職員</p> <p>○肯定率の高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かい進路指導を行っている(94%) ・きめ細かい進路情報の提供を行っている。(90%) ・保護者や生徒のニーズに合った特色がある(90%) ・緊急時の授業保障が構築されている(90%) <p>*農業高校の特性を活かし進路指導を充実させている。緊急時以外でも双方向での授業システムの確立ができた。</p> <p>○肯定率の低いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の長期的、計画的な拡充(52%) ・研修に参加する体制が整い、その成果を職員に伝える機会がある(56%) ・生徒会活動の支援(57%) <p>*肯定率は、それぞれが低い水準であるが、前年度に比べて増加している。施設設備については、大規模改修、トイレ改修等が肯定率に寄与している。しかし、まだまだ老朽化した施設が多く、クーラーの設置されていない実験・実習室も多く、教育活動に支障をきたしている。</p>	<p>第1回(6/20)</p> <p>○ 会長・副会長の選出</p> <p>○ 令和4年度学校経営計画及び学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の時間外勤務の現状について質問があった。 ・広報活動について、園芸高校の認知度を上げるために、本校を会場とした検定試験の実施や温室などの設備の活用を促進してはどうかとの意見があった。 ・専門教育の実施について、肥料代の高騰などの教育活動への影響について質問があった。 ・広報活動について、学校内外に対して園芸高校の魅力をもっと発信し、目標を持って入学してくる生徒を増やして欲しいという意見があった。 ・広報活動について、農業に興味を持つ中学生がもっと増えるように頑張りたい、という意見があった。 <p>○ 令和4年度各分掌等の取組目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動について、学校の魅力発信を積極的に行っているが、中学生に伝わっていないという意見があった。 ・広報活動において、中学生や中学校教員および保護者が理解しやすいようにアピールポイントを明確化する必要があるとの意見があった。(進学にも力を入れていることなど) <p>○ 令和3年度卒業生進路状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の推薦入試のメリットとデメリットについて意見があった。 ・高卒就職の活動において1人2社受験を可とする動きについての生徒への影響に関する質問があった。 <p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スクールミッション」を校内の意見をまとめ、話し合うために活用すればよい、との意見があった。 <p>第2回(12/14)</p> <p>○ 第1回授業アンケートについて評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における新型コロナウイルス感染症の影響について質問があった。 ・アンケート結果を学科・教科へフィードバックし、個々の生徒のフォローにつなげるなど、より掘り下げた活用を行ってはどうか、という意見があった。 ・アンケート結果の経年変化分析について、学年の進行に応じて生徒たちが興味関心をもって授業を受けることができる環境作りに取り組んでほしいという意見があった。 <p>○ 進路概況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職や進学の内訳の詳細について質問があった。 ・学校として就職、進学ともに力を入れ、生徒が希望する進路に進むことができる環境ができており、今年度も良い結果がでている、という意見があった。 <p>○ スクールミッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員より、農業教育に関する記述の加筆について助言があった。 <p>第3回(2/13)</p> <p>○ 令和4年度 学校経営計画および学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員より、CCを活用した指導や国公立大学への進学実績などについて、保護者や中学校向けの説明を充実させることが志願者の増加につながるのではないかと、この助言があった。 <p>○ 令和5年度 学校経営計画および学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員より、目標、計画についてはこの数年で取捨選択ができており、ブラッシュアップできている、との意見があった。 ・委員より、進学類型などの取組みについて、中学校のPRを検討すべきとの助言があった。 ・委員より、近隣中学校の志願者数を増やすことは重要であるとの意見があった。 <p>○ 令和4年度各分掌等の取組目標・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員より、近隣施設等と連携した生徒の活動や取組みについて、積極的にプレスリリースを行いPRしてゆくべき、との助言があった。 ・委員より、年度末に自己評価を行うことにはとても意味のあることである、という意見があった。 <p>○ 令和4年度卒業生 進路状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員より、他校の進路実績と比較した際の園芸高校の強みをもっとPRすべきとの助言があった。 <p>○ 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員より、「他の学校にない特色がある」と回答している生徒が多いことから、学校PRについて、生徒に意見を求めてみてはどうか、という提案があった。 ・委員より、生徒会活動や農業クラブの項目を「課外活動」として一本化することで、生徒の評価が分かりやすくなるのではないかと、という提案があった。 <p>○ 授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員より、肯定的な意見が多く見られることから、その結果を見やすい資料として教員にフィードバックすることで、より前向きに取り組めるようになるのでは、という助言があった。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 社会に開かれた教育課程の実現</p> <p>(2) 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。</p> <p>(3) 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・農業高校としての強みを活かし、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるための資質・能力を育むための教育課程を実施する。</p> <p>イ ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力を着実に育成する。</p> <p>ウ ・SDGsの達成を視点として教育活動をとらえ行動することにより、達成に向けて自らが貢献できる素養をはぐくむ。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・1年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入する。 ・付けさせるべき学力と付けさせるための方法について研究する。</p> <p>イ ・アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させる。 ・学期ごとに生徒の学習状況調査を実施する。</p> <p>ウ ・「高校生のための学びの基礎診断」の導入をめざし、学力向上に向けての具体的な方法について研究する。</p> <p>エ 生徒全員に配布されるタブレット端末を利用した、より効率的で魅力のある授業作りについて研究する。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科や他の教科との連携方法について研究する。</p> <p>イ ・課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。</p> <p>ウ ・「知財力開発校支援事業」の研究指定を生徒の知的財産への理解向上、創造性、主体性、自主性の醸成につなげていく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・新しい教育課程について、形成的評価を通じ、カリキュラム委員会により検証し、常に魅力あるものへと高めていく。</p> <p>イ ・各教科における育成したい資質・能力を明確化し学力委員会を学期ごとに開催し、観点別学習状況の評価を確立する。</p> <p>ウ ・各学科や教科、特別活動などの教育活動をSDGsのターゲット達成に照らし合わせ、それらをマトリクス化・体系化させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」を3.32にする。 [3.29]</p> <p>イ ・授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができています」を3.42にする。 [3.39]</p> <p>ウ ・1年生全員で導入する学習支援クラウドサービスや教育産業の基礎学力調査を活用するなど、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルを構築する。</p> <p>エ ・タブレット端末を有効に活用するとともにオンライン授業システムにより学校及び自宅での学習を充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」を3.40にする。 [3.32]</p> <p>イ ・農業クラブ大阪府研究発表会には、すべての学科において意見発表3部門、研究発表3部門へのエントリーをめざす。</p> <p>ウ ・学校設定科目「探究創造」において、知的財産教育を展開し、パテントコンテスト5名以上の出場をめざす。[0名] ・「園芸高校ブランド」としての商品を開発・販売する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・カリキュラム委員会は、6回実施にとどまったが、Society5.0に対応した、新しい選択科目の追加等時代に即した教育課程を構築できた。次年度はより専門科目の充実をめざす。 (○)</p> <p>イ ・各教科から新しい教育課程のシラバスが作られ、3年間の見通しを持った指導が行えた。また、各教科でルーブリックが策定され、共有する仕組み作りができた。次年度は、ルーブリックに基づいた評価ができていくかカリキュラム委員会で検証できる体制を作る。 (○)</p> <p>ウ ・教育活動をSDGsのターゲットに照らし合わせることではできなかったが、SDGsのターゲット12「つくる責任 つかう責任」に資する課題研究を2班が行った。次年度は、地域の中でのSDGsに基づいた教育活動を行う。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア ・授業アンケート項目8「授業内容に興味・関心をもつことができた」は、3.41に向上(◎)。ICTの活用場面が増え、興味・関心を持つことができるようになったためと考えられる。次年度も、積極的な活用を促進する。</p> <p>イ ・授業アンケート項目1「必要な学習(課題、宿題等)ができています」は、3.58に向上(◎)。次年度は、ICTを活用した予習・復習に取組む仕組みづくりを行う。</p> <p>ウ ・1年生全員で導入した学習支援クラウドサービスを活用することで、基礎学力の定着が見られた。本校の生徒の実情にあった学習支援クラウドサービスの活用方法について、データの分析から確立されつつあり、次年度も継続利用することでそれを検証する。(○)</p> <p>エ ・1人1台端末を授業中に活用する教員が増加した。そのため、自宅での学習が充実してきている。授業内での効果的な使用方法や、有効性を校内で共有し、より一層の活用をめざす。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア ・授業アンケート項目9「知識や技能が身についたと感じている」は、3.43に向上した(◎)。</p> <p>イ ・農業クラブ大阪府研究発表会の校内予選においては、すべての学科・専攻からエントリーがなされた。そのうち、大阪府予選を勝ち抜き3組が近畿大会に出場し、内2組が優秀賞を受賞した。次年度は、校内予選において発表件数だけでなく、研究発表の部門にもすべての選考から1本はエントリーがなされるようにする。(◎)</p> <p>ウ ・パテントコンテストの参加者はなかった。しかし、学校をPRするキャッチコピー「おいしい学校」というフレーズを生徒自らが作り出すことができ、広報活動で活用できた。(○) ・園芸高校ブランドとして、継続して廃棄果樹を利用したソースづくりを行うことができた。また、企業と連携して、新ブランドの立ち上げ準備も行えた。次年度も専門学校や地域・企業と連携を深める。(○)</p>
2 安全安心で魅力ある	<p>(1) 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナー、清掃活動、美化などに対する指導を徹底する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・遅刻による早朝指導対象生徒数を前々年度の86名以下にする。[70名] ・清掃活動の徹底等により、美化意識を向上させ、学習環境を整えていく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・遅刻による早朝指導対象生徒数は、70名(○)次年度は、担任・学年・教育相談と連携を取りながら、その背景を探り指導を継続。 ・保健部と連携を取りながら実施。授業に行く教員からも指導するよう共通理解を徹底する。(○)</p>

<p>学校づくり</p>	<p>(2) 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導の確立</p> <p>(3) 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立</p> <p>(4) 生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成</p>	<p>(2) ア ・職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制のさらなる充実</p> <p>イ ・中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。</p> <p>(3) ア ・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。</p> <p>(4) ア ・教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、効果的・効率的に職務を遂行する。</p> <p>イ ・府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。</p>	<p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」を84%にする。[83%]</p> <p>イ ・年度末の進級率・卒業率を98%にする。[97%]</p> <p>(3) ア ・スクールカウンセラーに加え、スクールソーシャルワーカーを有効に活用できる教育相談体制を確立する。</p> <p>(4) ア ・教職員の問題事象については、毎学期末の綱紀保持資料を活用するなど、事例を共有していく場をできる限り設定する。 ・教員の時間外労働時間(80時間超え)を半減する。 ・行政職員の時間外労働時間数総数(前年度)を維持する。</p> <p>イ ・学校説明会等の参加者を10%増加させる。[557人] ・開設したSNSのフォロワー数を倍増させる。[462人]</p>	<p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」は、90%に向上。(◎)。学年ごとに、学科を超えて生徒の共通理解が進むようさらに働きかけ、その仕組みを作る。</p> <p>イ ・年度末の進級率・卒業率は92.4%にとどまった。(△)1年生において、学校への適応が難しい事象がめだつた。早期に生徒の兆候を発見し、寄り添いチームで対応し、学校への適応を促す。</p> <p>(3) ア ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーは十分に活用できた。特に、スクールカウンセラーとは、連携が深められ生徒の個別対応を多く行えた。スクールソーシャルワーカーについては、社会的資源につなぐ連携を世一層取り組む。(◎)</p> <p>(4) ア ・毎学期ごとに綱紀保持資料を活用し、事例を共有し規範意識の醸成を行えた。(○) ・教員の時間外労働(80時間超え)は、産業医の面談や管理職の面談を行い業務の調整を行ったが、半減できなかった。(△)次年度は、個人の業務の見える化を行い、繁忙期、業務内容の把握に努め時間外勤務者を減らす。 ・行政職員の時間外勤務については、維持できた。(○)</p> <p>イ ・学校説明会は、548名参加。(学校説明会318名、体験入学230名)にとどまった。参加人数に顕著な増加はなかったが、申し込み不要にしたため、自由に参加できる点から参加者の評価は高く、1つの学科をじっくり見学できる形にしたことも評価が高い。また、実際に学校に足を運んでもらう重要性が、手ごたえとして教員にも伝わり、それぞれが工夫を凝らした説明を行うことができるようになる効果があった。(○) ・SNSのフォロワー数730名。(○)倍増はできなかったが、当行の回数や外部での活動を積極的に公開することで、フォロワー数が増加した。次年度以降も継続実施。</p>
--------------	---	--	---	---

<p style="text-align: center;">3 夢と志を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p>	<p>(1) ア ・就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。 ・海外での研修を実施し、異文化交流等の体験により国際的な視野を育む。 イ ・進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。 ウ ・各学科の学習を深めるとともに、キャリアアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。</p> <p>(2) ア ・行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する イ ・農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。</p>	<p>(1) ア ・学校紹介による就職率100%を維持する。農業専門学科に関連する産業分野への就職者を増加させる。[54%] イ ・学校設定科目「探究創造」では、知的財産教育、地域創生、SDGs、国際理解に関する学習を通じて科学的な思考力や論文作成能力等を育成し、総合型選抜の合格者の増加につなげる。 ・国公立大学や難関私立大学への合格者12名以上にする。[10名] ウ ・キャリア・パスポートを課題研究や資格取得等に関連させ、キャリア形成につなげていく。 ・アグリマイスター顕彰制度認定者を8名にする。[7名]</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」肯定率は74%にする。[73%] イ ・農業クラブ加入率を50%にする。[40%] ・年度末の3年生卒業研究発表会を定例化し、生徒、保護者に加え、外部（中学校教員、農政・地域関係者等）から15名以上参加してもらう。[0名]</p>	<p>(1) ア ・学校紹介による就職率100%を維持。農業専門学科に関連する産業分野への就職者は、49%にとどまった。農業関連の求人の増加がないため現状維持。(○)しかし、専門性の高い技術職での就職や大手企業への就職が増加した。教育課程と連動させながら学びを生かした就職をめざす。 イ ・総合型選抜の合格者7名。論文指導や論理的思考の醸成ができた。(○) ・国公立大学、難関私大合格者16名。各学科での進路指導の確立ができた。新しい教育課程での進学に対応したコースにおけるきめ細か指導につなげる。(◎) ウ ・キャリア・パスポートは、学期ごとに担任と生徒で十分活用された。また、今年度キャリアコンサルタントを活用することで、生徒も教員も1年時からの進路意識の醸成ができた。次年度も活用し進路意識の醸成に努めたい。(◎) ・アグリマイスター顕彰制度認定者 8名。(○)</p> <p>(2) ア ・生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」肯定率は78%に向上した。1年時からのキャリア教育を通じて目標設定ができるように支援体制を構築する。(◎) イ ・農業クラブ加入率は、58%に向上した。(◎) ・1月に実施した卒業研究発表会は、ホールに全校生徒が参集して実施。定例化はできた。保護者や近隣市町村中学校、学校運営協議会の委員に案内を配布し、外部参加者2名となった。(△)次年度は、企業にも働きかけ、多くの外部参加者に本校の取組をPRしていく。</p>
--	---	---	--	--